



2025 年 9 月 22 日

各 位

会社名 株式会社アイ・ピー・エス
銘柄名 株式会社 I P S
代表者名 代表取締役 宮下 幸治
(コード番号: 4390 東証プライム)
問合せ先 管理部長 赤津 博康
(TEL. 03-3549-7719)

(開示事項の経過) 日本、フィリピン、シンガポールを結ぶ新たな国際海底ケーブルの 共同建設に係る追加情報の公表に関するお知らせ

当社は、本日、2025 年 7 月 30 日付「新たな国際海底ケーブルへの設備投資（固定資産の取得）および大口受注（一部使用权の提供）に関するお知らせ」で開示しました日本、フィリピン、シンガポールを結ぶ新たな国際海底ケーブルの共同建設への参画に関し、当社および Meta Platforms, Inc.（以下「Meta」）、ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）、TM Technology Services Sdn. Bhd.、PT XLSmart Telecom Sejahtera Tbk のパートナー企業や、ケーブル名「Candle Submarine Cable System」（以下「Candle」）などの追加情報について公表しましたので、以下のとおりお知らせいたします。

また、Candle の建設は、サプライヤーの日本電気株式会社（NEC）において行われますので、併せてお知らせいたします。

記

1. Candle の概要

Candle は、日本から台湾、フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポールを結ぶ、総延長距離約 8,000 km の国際海底ケーブルシステムであり、2028 年に運用を開始する予定です。

この海底ケーブルシステムは、生成 AI や高速・大容量の通信を実現する 5G（第 5 世代移動通信システム）の普及を背景としたデータ通信需要の急増に対応する通信インフラの拡張とセキュアな冗長ルートの確保に貢献します。

Candle は、多くの既存海底ケーブルシステムより大容量・低遅延の 24 ファイバーペア（FP）の構成を採用し、アジア地域において高まる通信需要に対応します。

Candle マネジメントコミッティの議長を務める Meta の Don Pang 氏は「Candle は、アジア地域のデジタルインフラ強化における重要な進展です。堅牢で高速な接続性への需要が高まる中、Candle はこの重要なルートにおいて、最先端技術を活用し、より優れたネットワークによる多様性やレジリエンスを提供します。この画期的な成果は、パートナー間の深い連携を反映するとともに、アジア太平洋地域に暮らす 5 億人以上の人々に対するデジタル包摂と経済的機会を促進するという、私たちの共通のコミットメントを示すものです」と述べています。

- ① ケーブル名 Candle Submarine Cable System
- ② パートナー企業 Meta、ソフトバンク、TM Technology Services Sdn. Bhd.、
PT XLSmart Telecom Sejahtera Tbk
- ③ スペック 24FP、総延長距離約 8,000 km
- ④ ルート 日本ー台湾ーフィリピンーインドネシアーマレーシアーシンガポール
- ⑤ サプライヤー NEC
- ⑥ 運用開始 2028 年（予定）



Candle のルート図

2. 当社の事業戦略

当社は、Candle の中核メンバーとして、アジア地域において国際海底ケーブルを中心とする通信事業の成長性を飛躍的に高めてまいります。

Candle は、当社が 2025 年 8 月 7 日付「連結子会社における新規事業の開始に関するお知らせ」にて公表しましたフィリピン・ルソン島東岸 Baler の海底ケーブル陸揚局に接続いたします。Baler 陸揚局は、アジア屈指の先進的な陸揚局として当社グループ主導で建設・運営し、アジア域内のデータ大動脈を担う Candle の、アジア側エントリーポイントとなり、フィリピンのみならず、急成長を続ける東南アジア全域のデジタルハブとして、地政学的にも戦略的な意味を持ちます。

さらに、Baler 陸揚局は、フィリピン国内最大規模の光ファイバー網として、当社グループが共同建設を主導したフィリピン国内海底ケーブルネットワーク（Philippine Domestic Submarine Cable Network、PDSCN）とのゲートウェイとしても機能し、国際通信とフィリピン全土のネットワークをつなぐ結節点となります。

これらの取り組みにより、マニラ首都圏からフィリピン国内の地方都市、東南アジア域内、さらには日本やシンガポールまで、一気通貫で超高速・大容量のネットワークを提供できる類まれな戦略拠点としてまいります。

Baler 陸揚局には最大 4 系統の国際海底ケーブルが接続可能となり、AI・クラウド型データセンターやスマートシティ基盤としての発展も見据えた、最先端のデジタルサービス集積地となる構想も進行中です。当社グループが中心となり、フィリピンにおける通信の未来とアジアのデジタルハブ化の鍵を握る、国際インフラに位置付けることを目指してまいります。

当社の宮下幸治代表取締役は「このプロジェクトへの参画は、アジア太平洋地域におけるデジタルインフラのさらなる発展に重要な役割を果たすという当社の決意を改めて示すものであり、日本、

フィリピン、シンガポールでの当社事業にとって極めて重要です。当社子会社である InfiniVAN, Inc. が、フィリピン東海岸の Aurora 州 Baler への陸揚げ事業者として参加します。これは東南アジアにおける接続ハブとしてのフィリピン発展を支援するため、当社が計画する多くのプロジェクトの中の一つとなります」と述べています。

3. 資金計画について

本投資に要する資金については、当社の手許資金および営業キャッシュフローに加え、9月19日付「財務上の特約が付された資金の借入に関するお知らせ」にて開示しましたとおり、複数の金融機関から外部資金を調達する予定であるほか、建設進捗に応じて顧客から前受金を受け取る IRU 契約も一部締結済みです。

引き続き、資本効率と財務健全性の両立を図りつつ、必要に応じて最適な資金調達手段を検討し、柔軟かつ安定的な体制を構築してまいります。

4. 今後の見通し

本件は、当社グループの業績および企業価値の向上に、中長期的に資するものと考えておりますが、2026年3月期の当社連結業績に与える影響につきましては、引き続き精査中です。今後、業績への影響が判明した場合には、速やかに開示いたします。

以 上

(ご参考) 当社およびパートナー企業のプレスリリース

Meta, SoftBank Corp., IPS, TM, XLSmart, and NEC to build the Candle Submarine Cable System, Intra Asia, 24-Fiber Pair Optical Submarine Cable, Connecting Japan to Singapore

Washington, D.C., Jakarta, Kuala Lumpur and Tokyo, Sep 22, 2025 – Meta, SoftBank Corp., IPS Inc., TM Technology Services Sdn. Bhd., PT XLSmart Telecom Sejahtera Tbk, and NEC Corporation are collaborating to develop the Candle submarine cable system.

The Candle submarine cable system is a 24-fiber pair, 8,000 km submarine cable system connecting Japan, Taiwan, the Philippines, Indonesia, Malaysia, and Singapore, scheduled to begin operations in 2028. It will contribute to infrastructure expansion and secure redundant routes to meet the increasing demand for data communications driven by 5G and AI.

This cable system will be one of the first in the Asia-Pacific region to use a 24-fiber pair cable, to support the strong demand for communications in the region.

Chairperson of the Candle Management Committee, Don Pang, said: “Candle represents a pivotal advancement in fortifying the region’s digital infrastructure. As the need for robust, high-speed connectivity grows, Candle will deliver greater network diversity and resilience along this essential corridor, leveraging state-of-the-art technology. This milestone reflects the deep collaboration among our partners and underscores our shared commitment to advancing digital inclusion and economic opportunity for over half a billion people in the Asia-Pacific region.”

The comments of each company regarding this matter are as follows.

“At Meta, we imagine a future where everyone has access to AI, personal superintelligence, and other emerging technologies to improve their lives and connect with each other. This is part of our commitment to seamlessly bring people together no matter where they are in the world.”

Nico Roerich, Director, APAC Network Investments, Meta.

“Our participation in this project reaffirms our commitment to play a significant role in the further development of digital infrastructure in the Asia-Pacific region, which is vital to our operations in Japan, the Philippines, and Singapore. With our subsidiary, InfiniVAN, as the landing party in the Baler, Aurora Province on the eastern seaboard of the Philippines, this is one of many projects we have planned in support of developing the Philippines as a connectivity hub in Southeast Asia.”

Koji Miyashita, CEO of IPS, Inc.

“With the rapid advancement of generative AI and the Internet of Things (IoT), the demand for international telecommunications is expected to continue accelerating. CANDLE adopts a 24-fiber-pair architecture, making it one of the core foundations of next-generation social infrastructure that SoftBank is promoting. By integrating with other submarine cables such as JUPITER, ADC, and E2A, we will further enhance the diversity and redundancy of global communications networks originating from Japan, and strengthen Japan’s role as a digital gateway for Asia.”

Kimimasa Kudo, Vice President and Head of Global Business Division, Enterprise Unit,
SoftBank Corp.

“TM’ s participation in the Candle submarine cable system project demonstrates our commitment to building resilient digital infrastructure that meets the growing demand for digital services and cloud-based, AI-driven innovation across Asia. It strengthens our ability to support hyperscalers, enterprises and global service providers in expanding their footprint across ASEAN, while reinforcing Malaysia’ s role as ASEAN’ s digital hub. This initiative bodes well with our aspiration to become a Digital Powerhouse by 2030—connecting Malaysia to the world, and the world to Malaysia.”

Amar Huzaimi Md Deris, TM’ s Group Chief Executive Officer

“XLSMART will fully support the project and we believe the Candle cable will bring benefits for all consortium parties and Indonesia.”

Feby Sallyanto, Chief of Enterprise, PT XLSmart Telecom Sejahtera Tbk.

“NEC is a leading vendor in the submarine cable system business with over 60 years of experience. NEC is particularly strong in leading subsea projects in the Asia-Pacific region, having been responsible for eight optical submarine cable systems connecting Japan and Singapore, including ‘Candle.’ In this project, NEC will participate as a system integrator, providing everything from the manufacture of submarine cables and repeaters to route design, installation, and testing. Through the establishment of a highly reliable communication environment in the Asia region, NEC will contribute to the development of the digital economy.”

Tomonori Uematsu, Managing Director, Submarine Network Division, NEC Corporation.



※以下、当社による日本語訳

**Meta、ソフトバンク、IPS、TM、XLSmart、NEC が共同で「Candle 海底ケーブルシステム」を建設へ。
アジア域内向け 24 光ファイバーペアの海底ケーブルで日本とシンガポールを結ぶ**

ワシントン D.C.、ジャカルタ、クアラルンプール、東京、2025 年 9 月 22 日 - Meta、ソフトバンク株式会社、株式会社アイ・ピー・エス、TM Technology Services Sdn. Bhd.、PT XLSmart Telecom Sejahtera Tbk、および日本電気株式会社は、Candle 海底ケーブルシステムの開発に協力します。

Candle 海底ケーブルシステムは、日本、台湾、フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポールを結ぶ 24 光ファイバーペア、全長 8,000km の海底ケーブルシステムであり、2028 年の運用開始を予定しています。5G や AI によるデータ通信需要の増加に対応するため、インフラ拡張と冗長ルートの確保に貢献します。

本ケーブルシステムは、アジア太平洋地域で初めて 24 ファイバーペアケーブルを採用するシステムの一つとなり、同地域の強い通信需要を支えます。

Candle マネジメントコミッティの Don Pang 議長は次のように述べています。「Candle は、この地域のデジタルインフラ強化における重要な進展です。堅牢で高速な接続性へのニーズが高まる中、Candle は最先端技術を活用し、この重要な回廊に沿ってネットワークの多様性とレジリエンスを大幅に向上させます。このマイルストーンは、パートナー間の深い連携を反映するとともに、アジア太平洋地域の 5 億人以上の人々に対するデジタル包摂と経済機会の促進に向けた私たちの共通の取り組みを強調するものです」

各社の本件に関するコメントは以下の通り。

「Meta では、誰もが AI やパーソナル・スーパーインテリジェンス、その他の新興技術にアクセスし、生活を向上させ、互いにつながれる未来を構想しています。これは、世界中のどこにいても人々をシームレスにつなぐという当社の取り組みの一環です」

Nico Roerich, Director, APAC Network Investments, Meta

「本プロジェクトへの参画は、日本、フィリピン、シンガポールにおける事業基盤として極めて重要なアジア太平洋地域のデジタルインフラ発展に、当社が重要な役割を果たすという決意を改めて示すものです。子会社である InfiniVAN がフィリピン東海岸 Aurora 州 Baler に陸揚げ事業者として参画しており、これはフィリピンを東南アジアの接続ハブとして発展させるため当社が計画する数多くのプロジェクトの一つです」

Koji Miyashita, CEO of IPS, Inc.

「生成 AI とモノのインターネット (IoT) の急速な進展に伴い、国際通信需要は今後も加速し続けると予想されます。Candle は 24 ファイバーペア構成を採用しており、ソフトバンクが推進する次世代社会インフラの中核基盤の一つとなります。JUPITER、ADC、E2A などの他海底ケーブルとの連携により、日本発のグローバル通信ネットワークの多様性と冗長性をさらに強化し、アジアのデジタルゲートウェイとしての日本の役割を強化します」

Kimimasa Kudo, Vice President and Head of Global Business Division, Enterprise Unit,
SoftBank Corp.

「TM が Candle 海底ケーブルシステムプロジェクトに参加したことは、アジア全域で高まるデジタルサービスやクラウドベースの AI 駆動型イノベーションへの需要に応える、強靱なデジタルインフラ構築への当社の取り組みを示すものです。これにより、ハイパースケーラー、企業、グローバルサービスプロバイダーが ASEAN 域内で事業基盤を拡大する支援能力が強化されると同時に、マレーシアの ASEAN のデジタルハブとしての役割がさらに確固たるものとなります。この取り組みは、2030 年までにマレーシアを世界と、そして世界とマレーシアをつなぐ『デジタル・パワーハウス』とするという我々の目標に合致するものです」

Amar Huzaimi Md Deris, TM' s Group Chief Executive Officer

「XLSMART は本プロジェクトを全面的に支援します。Candle のケーブルはコンソーシアム全参加企業とインドネシアに利益をもたらすと確信しています」

Feby Sallyanto, Chief of Enterprise, PT XLSmart Telecom Sejahtera Tbk

「NEC は 60 年以上の実績を持つ海底ケーブルシステム事業の主要ベンダーです。特にアジア太平洋地域における海底プロジェクトの主導に強みを有し、『Candle』を含む日本とシンガポールを結ぶ八つの光海底ケーブルシステムを担当してきました。本プロジェクトではシステムインテグレーターとして参画し、海底ケーブル・中継器の製造からルート設計、設置、試験までを一貫して提供します。アジア地域における信頼性の高い通信環境の構築を通じ、NEC はデジタル経済の発展に貢献します」

Tomonori Uematsu, Managing Director, Submarine Network Division, NEC Corporation